

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士(文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	程 海藝
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 太陽信仰と蛇信仰に関する日中比較研究—稲作文化の伝来を中心に—			
論文審査担当者(The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	佐藤利行	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	本田義央	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	中山富廣	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	李 国棟 (浙江工商大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、稲作文化の伝来について、銅鏡・銅剣・曲玉に含まれる太陽信仰と蛇信仰とを視点とし、主に『古事記』『日本書紀』等の文献資料によって考察したものである。論文は、序章、第一章「稲作漁撈民にとっての太陽信仰と蛇信仰」、第二章「八咫鏡から見る太陽信仰と蛇信仰の一体性」、第三章「草薙剣からみる太陽信仰と蛇信仰」、第四章「八坂瓊曲玉から見る太陽信仰と蛇信仰の一体性」、第五章「鏡、剣、玉の統合」、終章の全七章から構成されている。</p> <p>序章では、本研究の動機・目的を論じ、日本・中国における先行研究について分析した上で、本研究の意義、研究の方法について述べる。</p> <p>第一章では、稲作文化と太陽信仰との関連性について考察する。日中両国においては、太陽信仰と蛇信仰との一体性が見られ、「鏡」「剣」「曲玉」の出現とその展開は稲作文化の伝播と密接に関わっている。すなわち、長江流域で生まれた稲作は日本の九州北部に伝わり、その伝播の過程において「銅鏡」「銅剣」「曲玉」が確立されたということを論証している。</p> <p>第二章では、「八咫鏡」に焦点を当てて太陽信仰と蛇信仰の一体性について考察する。主に『古事記』『日本書紀』に見られる鏡の記載に拠って、その文化的意味を論考する。すなわち、「八咫鏡」には天照大神の御霊がその中に含まれているとされるが、鏡に見られる内行花文は中国苗族文化にも見ることができる。苗族は春秋戦国時代には楚国に属しており、その一部が居住していた淮河流域は銅の産地であった。苗族の古歌には銅を歌うものが多く見られ、鏡を指す語には太陽と蛇の意味が含まれている。稲作文化の伝来と「八咫鏡」に含まれる太陽信仰と蛇信仰とは、苗族文化と深く関わっていることを指摘している。</p> <p>第三章では、『古事記』『日本書紀』に見られる「草薙剣」の記述に基づき、その伝来過程およびそこに見られる太陽信仰と蛇信仰について考察する。「草薙剣」は素戔鳴尊が退治した八岐大蛇の尾から取られたもので、いわば蛇の象徴である。また、中国閩越地域では多くの銅剣が発見され、そこにも蛇信仰との関連性が認められる。春秋戦国時代には戦禍によって多くの亡命者が、長江下流域から周山諸島を経由し、対馬海流に乗って日本海側の出雲や北陸地域に上陸したと思われる、多数の銅剣が伝来した。当初は武器であった銅剣はやがて祭器となり、金色で太陽光を反射するという点から太陽信仰と結びつく。このように銅剣には太陽信仰と蛇信仰との一体性が見られることを論述している。</p> <p>第四章では、「八尺瓊曲玉」に見られる太陽信仰と蛇信仰について考察する。『古事記』『日本書紀』には玉に関する多くの記述がある。天照大神から伊耶那伊弉命が賜ったとされる曲玉は、そもそも太陽信仰との関わりが深い。また蛇神とされる大国主神の御霊代は曲玉であり、そこから「八尺瓊勾玉」</p>			

には太陽信仰と蛇信仰の一体性を認めることができる。更に『古事記』や『出雲風土記』等に見られる越人の出雲地域への移住、「八尺瓊曲玉」が定形曲玉であり、その出現は稲作の伝来と深く関わっていることについても論証している。

第五章では、第二章・第三章・第四章で考察した「銅鏡」「銅剣」「曲玉」の統合について考察する。すなわち、『古事記』『日本書紀』に見られる記述に拠って、神璽としての鏡・剣、権威象徴としての鏡・剣・玉、求婚礼器としての鏡・剣・玉、祭祀器具としての鏡・剣・玉について、それぞれの文化的意味を明らかにするとともに、中国大陸との稲作の伝来を通しての文化交流によって、外来文化と現地文化との融合により「三種の神器」が形成されたことを論証する。

終章では、各章の考察によって得られた内容をまとめた上で、研究の過程で明らかになった問題点・課題について述べる。

以上、述べたように、本論文は稲作文化の伝来を中心に、「銅鏡」「銅剣」「曲玉」に見られる太陽信仰と蛇信仰について日中比較文化論の視点からその特徴を明らかにしようとしたものである。従来、個別的な研究が中心であった中で、総合的に太陽信仰と蛇信仰との一体性を研究したものとして高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)